

学校生活管理指導表の提出が望ましい例

管理指導表は、学校生活における特別な配慮や管理が必要な児童生徒等に、使用されるものです。以下の症状等を参考にしてください。

<気管支喘息>

- ・ ほぼ毎月、喘息発作が起きるために学校を遅刻または欠席する。
- ・ 内服ステロイドを必要とすることがある。
- ・ 運動すると喘息発作が起きるため、体育を欠席することがある。
- ・ 運動すると発作が起こるため、強い運動（長距離走など）ができない。

<アトピー性皮膚炎>

- ・ かゆみが強く、授業に集中できない。
- ・ 特定の場所及び作業において、全身の湿疹が悪化する。
- ・ 汗や日焼けなどによる変化があり、特別の対応を必要とする。
- ・ 学校で保湿剤等の使用を必要とする。

<アレルギー性鼻炎>

- ・ 内服ステロイドを3日以上連続している。
- ・ 花粉シーズンの間、体育や屋外活動に参加しないよう主治医に指導されている。

<アレルギー性結膜炎>

- ・ プールの際、ゴーグルを使用しても刺激で悪化するため、授業をすべて見学する。
- ・ アレルギー性結膜炎のため、視力低下がある。

<食物アレルギー>

- ・ 学校給食や調理実習等に除去食を必要とする、または弁当持参を必要とする。
- ・ 微量の摂取でも、アナフィラキシーを起こす。(注1)
- ・ アドレナリン自己注射薬の携行を必要とする。(注2)
- ・ 食物依存性運動誘発アナフィラキシーがある。(注3)

<アナフィラキシー（食物以外）>

- ・ ハチなどの昆虫による刺傷、医薬品、ラテックス（天然ゴム）、または原因不明のものでアナフィラキシーを起こしたことがある。または起こす可能性が非常に高い。
- ・ ハチアレルギーや薬物アレルギーのためにアドレナリン自己注射薬の携行を必要とする。

(注1) アナフィラキシー

アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼー、呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態。

(注2) アドレナリン自己注射薬（エピペン[®]）

アナフィラキシーを起こす危険性が高く、万一の場合に直ちに医療機関での治療が受けられない状況下にいる者に対し、事前に医師が処方する自己注射薬。

(注3) 食物依存性運動誘発アナフィラキシー

原因となる食物を摂取して2時間以内に一定量の運動をすることにより起こるアナフィラキシー症状。

※ 「ガイドライン」（財団法人 日本学校保健会）より